TETTO COLUMN ～館長のつぶやき～

「TETTO で宴会はできるの？」　2024/12 「RE:TETTO」No.84

中心市街地の某ホテルが宴会業務を行わなくなったことはご存じかと思いますが、その新たな受け皿として TETTO のホール B が今、注目を集めています。昨年には結婚披露宴会場として利用されたお客様もおられましたが、今のところは飲食を主目的とする貸館（利用）については、衛生面等も鑑み利用制限をかけさせていただいているのが現状です。というのもホール B には「水まわり」がなく、飲料水の提供や洗い物の処理等について、少し離れた場所の小さなシンクのみでの対応しかできないこと、翌日の貸館のための「消臭対策」も必要なこと、床の一部が液体（飲み物）のこぼれなどに対応していないことなどがあるためです。それでも、まずはお弁当＋α程度のケータリング料理と飲み物などを、お客様がご自身で準備できるようなら、ご利用に向けて一緒に考えていきたいと思っています。皆様からのご意見も募集中です！

「日本と海外のオーケストラ演奏の違い」　2025/1 「RE:TETTO」No.85

先日、TETTO にて世界最高峰、ベルリンフィルハーモニー管弦楽団のメンバーによる室内楽コンサートが行われ、ご来場の皆様は満面の笑みでお帰りになりました。さて、日本の演奏家（オーケストラなど）と海外の演奏家では何が違うのか？もちろん一概に言えないところはありますが、私は「冒険心・好奇心」の差が演奏に大きく反映していると感じています。とにかく日本のプロオーケストラは、どの団体もミスが少なくとても美しい演奏をします。でも音楽として伝わってくるものがなぜか少ない？海外の一流の演奏家のコンサートでは、自分が感じるままに音楽を（ミスを恐れず）ガンガン伝えようとする演奏に出会う機会がなぜか多い。もちろん日本にもそのような演奏家はたくさんいます！
皆さんが感動する演奏とはどのようなものですか？

過去のオーケストラ公演より

「RE:TETTO と共に」　2025/2 「RE:TETTO」No.86

私が RE:TETTO に「館長のつぶやき」を寄稿してから、今回の寄稿が 47 回目。来月 3 月号でちょうど、まる 4 年（48 回）となります。しかしながら新年度（4 月号）からの RE:TERTTO リニューアルに伴い、残念ながら？このコーナーはなくなることとなりました。現在はホッとしているような、でもちょっぴり寂しい気分もどこかにあります。寄稿にあたって、どなたでも理解していただけるような内容を心がけ文章を考えていったことが結果、自分自身がより深く TETTO のことを理解し学ぶことに繋がっていったように思います。本当は自分の得意分野である音楽について、もっともっと書きたかったのですが、利用促進のための、いわゆる経営者的な目線になってしまった文章が多かったことをちょっぴり後悔しています。次回最終回は、私の思うこれからのホールの未来について書いてみたいと思います。

「これからの TETTO」　2025/3 「RE:TETTO」No.87

皆さんはこれからの釜石の未来を想像したことがありますか？ 20 年後の TETTO はどうなっているのでしょう？私は生きていれば 85 歳。人口がさらに減少し、もしかしたら TETTO を維持するだけのお金を賄えない状況になっているかもしれません。お先真っ暗なのか？いえいえ、そんな想像はしていません。一流のオーケストラ公演やプロの演劇公演などは少なくなっているかもしれませんが、未来の TETTO は市民の皆様からより愛され、朝から晩まで老若男女を問わず、市民の利用や憩いの場としていつも賑わっている、そんな光景が今と同じように続いているはずです！皆様に使い倒していただけるようなホールを夢見ながら、これからも職員一同、前を見据えて皆様と共に歩んでまいります。今後とも変わらぬご愛顧を賜りますよう宜しくお願いいたします。　P.S. 連載終了が寂しい方は TETTO までお越しください。（笑）